

これは井口維作君を紹介するページです。

## 維作誕生

長男、維作（イッサク）が1992年4月28日に東京医科歯科大学産婦人科で生まれました。まだ我々が駒込に住んでいた時でした。「維」という字は、簡単に言えば「システム」という意味なので、「我々の世界に新しいシステムをもたらす人」になって欲しいという希望を託して名付けました。そして、偉大な物理学者Isaac Newtonのアイザックをとりました。彼はほとんど教科書どおりすくすくと成長しました。維作は極めて大形で、どこへ行っても、背の高いグループに入ります。現在、130cm近くあり、小学校3年生なみです。維作もひらがなやカタカナが読み書きでき、簡単な足し算引き算ができるようになりました。簡単な漢字は自分の想像力で理解できているようです。



維作が生まれる前に我々夫婦は1つの実験を試みました。それは、彼がお腹の中にいるときにモーツァルトの音楽を毎日聞かせました。（もちろん他のいろんな音楽も。）それを生まれてから覚えているかどうかという実験です。生まれてすぐに、それを試みました。やはり、彼はその音楽を覚えていました。彼は、その音楽を聞くと、安心しすぐに眠ります。そして6歳になった今も、その音楽を聞くと、眠りのシグナルと思ってふざけて寝るまねをします。

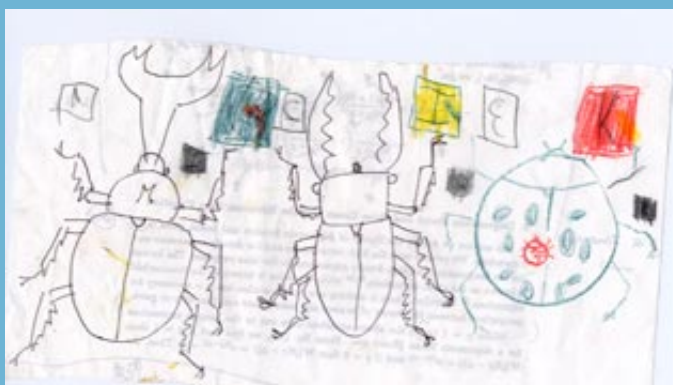
生まれてからすぐに、私はエッシャーの絵の本の図を毎日毎日彼に見せました。それは、ふつう人がまだ眼が見えてないという時期からずっとです。私は眼が見えないのではなく、脳がまだ見えるということを理解している最中なのだと考えたからです。エッシャーの本を選んだ理由は、その色彩の豊かさと、さまざまなパターンがあるからです。事実、この本の中には、平面幾何学、立体幾何学、双曲線幾何学、絶対幾何学、リ-マン幾何学とあらゆる幾何学のエッセンスが入っています。その結果、現在彼の幾何学に対する認識の早さは、大人顔負けです。自分で描くのは、まだまだですが、相当な感性が彼の頭にはあるようです。

現在は、時間と空間と数の概念、言葉の概念などを毎日の生活の中で、自己認識できるように、いろいろ試しているところです。（もちろん、サッカーも。）しかし、いわゆる公文式などのドリルを使ったり、無理に覚えさせたり、練習させたりするのではなく、言葉と図を中心とした、問答方式で私は

行っています。毎日規則正しい生活の中から自分達で自ら考え勉強するようにしています。いわゆるお勉強は確かにちょっと物知りのナイーブな日本人を育てるのには良いかも知れませんが、とても世界の力強さに対抗できるような強力な知性を育てる事はできないと考えるからです。糸蒔にも全く同様に行って来ています。彼等の作るなぞなぞは驚くほど高度です。

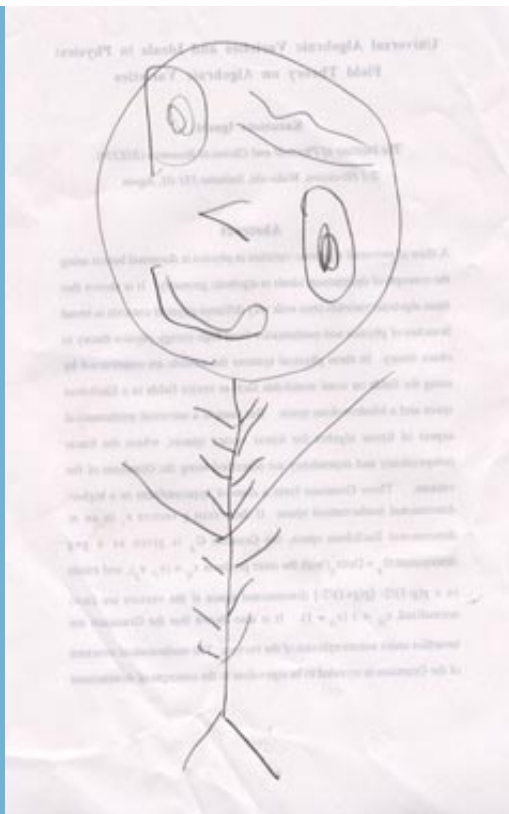
現代ほとんどすべての日本人の家庭では、母親が小さい子供の面倒を見て、当然しつけや学習も女性が見ているようですが、我が家では、それは全く違います。脳の基本は5、6歳までに完成します。そのとき、右脳と左脳のバランスの取れた成長が必要であると私が考えるからです。なぜなら、一言でいうと、感性が中心の右脳は母親が育て、理性や好奇心中心の左脳は父親が育てるからです。この時期に一方に片寄った刺激は、男の子を女性的にしたり、女の子を男性的にしたりすると私は考えているからです。（私は、この理由から、出産休暇、育児休業というのは、母親である女性だけでなく、父親である男性にも与えられるべきだと考えています。）子供の世話がいくらたいへんであったとしても（実際には、これは男性には極めて忍耐のいるたいへんなことなのですが）、せいぜい6歳くらいまで頑張ればよい訳ですから、だれでもやってみる価値はあるでしょう。私は、富士通、理研時代から自分の出世がたとえ数年遅れようと、子供が生まれた以上、この数年間はここの子供達の知的刺激物としての立場を全うしようと考えて今まで生活してきました。それがやっとこの1、2年で終わろうというところですが、今後は、今まで以上に私自身のことに集中できるようになるでしょう。そして、いわゆる「子供は親の背中を見て育つ」の段階に入っていくでしょう。

## 維作のギャラリー

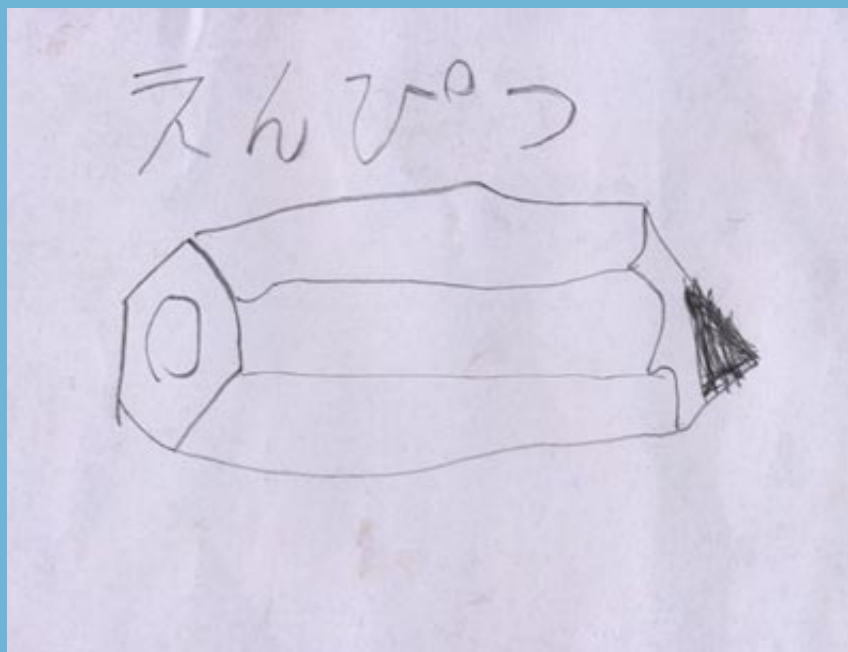




維作の好きな虫たち



オバケ

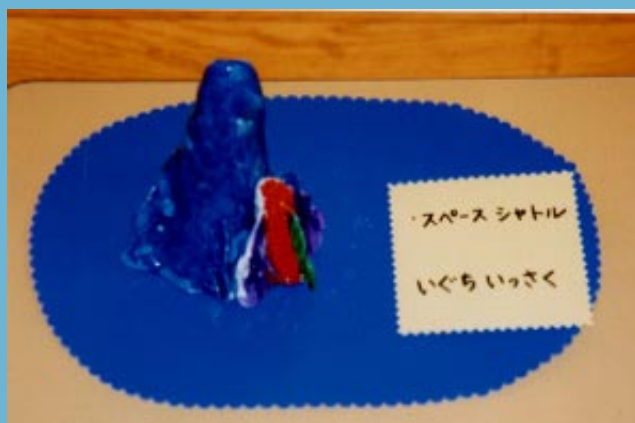


維作 6 歳



## ロボット





維作7歳



維作8歳





---

[ホームページ](#) [和基](#) [和子](#) [維作](#) [条時](#) [家族](#) [Donation](#)

---

「井口和基博士と家族のホームページ」  
〒774-0003 徳島県阿南市畷町新はり70-3  
井口和基 (C)2004